

## 会 議 録

会議名	平成26年度 第1回印西市子ども・子育て会議
開催日時	平成26年7月8日(火) 午後1時30分から午後3時50分まで
開催場所	印西市役所 附属棟 24・25会議室
出席委員	西村 信会長、古賀 知世委員、梅元 妙子委員、西林 千秋委員、古賀 一人委員、 岩井 基委員、小谷 博子委員、前田 陽子委員、服部 光子委員 計9名
欠席委員	小島 喜美代委員、佐藤 美智代委員 計2名
出席職員等	[事務局] 保育課 伊藤 敏一、小作 公哉、杉森 俊彦、泉田 隆之 [関係課] 子育て支援課 岩井 太一、斉藤 直美 学務課 寺島 光浩、海老原 裕之、山崎 麻紀子 [コンサル] 株式会社 まち研 研究員 浜田 守、本間 洋美
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 等 (1) 子ども・子育て支援事業計画における「区域」の設定について 【資料1】 (2) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」及び 「確保方策」について 【資料2】 (3) 子ども・子育て支援法に関する基準について 【資料3】 ①特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準 【資料3-1】 ②家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準 【資料3-2】 ③放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準 【資料3-3】 (4) そ の 他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・平成26年度 第1回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・【資料1】 子ども・子育て支援事業計画における「区域」の設定について ・【資料2】 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」及び「確保方策」につ いて ・【資料3】 子ども・子育て支援法に関する基準について ・【資料3-1】 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準 ・【資料3-2】 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準 ・【資料3-3】 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準 ・【資料】 《用語の解説》 ・【参考資料】 保育園待機児童数の推移、人口世帯数の推移、0～5歳児の人口動態、将来人口の 見通し、幼稚園・保育園在園状況、子育て支援施設、その他事例紹介など

1 開 会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 子ども・子育て支援事業計画における「区域」の設定について

○事務局より説明

- ・保育園以外の施設及び事業については、市内を1つの区域とする旨の提案について説明を行った。
- ・保育園については、ニュータウン地域での住宅開発により今後の児童数増加が見込まれることや現在の保育園待機児童数の傾向から、保育施設部分については市域を3つの区域とする旨の提案について説明を行った。

○質疑

特になし。

○協議結果

事務局案で一同了承。

(2) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」及び「確保方策」について

○事務局より説明

- ・計画素案を策定する上での各施設・事業の方向性に関する事務局案の説明を行った。
- ・保育施設については、現状では大きく不足することになるが、ニュータウン地域で新規の保育園立地の見込みがある旨などについて説明を行った。

○質疑

【小谷委員】産後うつへの対応などは大切なことだと思われる。印西市は市外から転入してくる人が多いので、生活の中心が、妊娠中は都内、出産後は印西市内という人が多いと思われる。産後、地域に知り合いがいなくて苦労する人がいるのではないかと。そのような問題への対応や児童養護施設の活用についてはどのように考えているか。

【事務局】印西市内には児童養護施設はない。近隣では、八千代市にそのような施設がある。

【梅元委員】八千代市には乳児院やサポートセンターがある。自分も市外からの転入者で、周りに自分の子どもと同じような年齢の子どもがいない状況だった。ショートステイなどの預かりについて、その施設に問い合わせたところ、鎌ヶ谷市や習志野市と契約しているとのこと。こういう体制があるのは、親にとってはありがたい話だと思う。

【小谷委員】このあたりの問題についての見込みはどうか。

【事務局】ショートステイ・トワイライトステイについては体制を整えていくべきと考えており、施設と委託契約を結ぶという方向で考えている。なお、現在、小学6年生までの家庭を対象にヘルパー派遣といった事業は実施している。

【服部委員】利用者支援は大切な取組みだと思う。また、こんにちは赤ちゃん訪問事業は、誰が訪問しているのか？

【事務局】助産師が訪問している。

【古賀一人委員】幼稚園では、夏休みなどの長期休業の一時預かりの希望は多いが、赤字なので経営的に難しい面があり、市の補助等の検討をお願いしたいところである。幼稚園を利用しているお母さん

が働きたいというニーズは多い。

- 【小谷委員】幼稚園児の保護者で働きたいという人は、保育園に入れないうえに幼稚園を利用しているのか？
- 【古賀一人委員】保育園に入れなかったから幼稚園を利用しているということではないと思われる。フルタイムというよりパートで働きたいという希望のようである。
- 【梅元委員】幼稚園児のお母さんで働いている人の割合はどれくらいか。
- 【古賀一人委員】1～2割が働いていると思われるが、それ以外の予備群（パートなどで働きたい人）が結構いるものと思われる。
- 【西村会長】本当の1号認定子どもは少なくなっていると思われる。
- 【梅元委員】私は、子どもを幼稚園に預けたかったが、働いており無理であった。
- 【事務局】一時預かり事業への補助は、今は私学助成に中で行っている。今後は、市町村との受委託により事業を行うことも考えられる。
- 【古賀知世委員】公立幼稚園は、一時預かりがないが、ニーズもあり、実施に向けて考えてほしいと思う。
- 【事務局】幼稚園における一時預かり（預かり保育）については、今後厚くする方向で検討する。
- 【前田委員】ファミリーサポートセンターの利用について、以前、私は幼稚園のお子さんをお預かりしていたことがある。お母さんが働いており、朝はバスまで送り、幼稚園が半日のときは午後の数時間を預かる、ということも行っていた。朝の時間帯（早朝等）ならば、一時預かりだけでなく、ファミリーサポートセンターも上手に利用していいのではないかと思う。また、1歳児のお子さんで、お母さんが運転免許を取得したいが教習所の託児施設は利用したくないということで、お預かりした経験もある。
- 【西村会長】幼稚園は、施設型給付を受ける施設になることができます。施設型給付を受けるかどうか、5年間の猶予はあるが、幼稚園の方ももっと勉強していきたいと思う。
- 【前田委員】印旛学舎では、障害児のショートステイも行っており、そういったものも検討してほしい。
- 【梅元委員】アンケート調査は、保育所に預けている家庭だけのものではないので、延長保育の見込み量が少ないと思う。実績値をみても、実際はもっと多いのでは。また、土曜日の保育園と学童クラブの終了時間を一緒にしてもらいたい。
- 【事務局】公立保育園では、時期にもよるが、半数くらいの児童が延長保育を利用している。
- 【岩井委員】どんぐり保育園の利用者をみると、60世帯中55世帯くらいは延長保育の申請をしている。
- 【事務局】延長保育については、保護者の意向に沿うように検討していきたい。
- 【西林委員】土曜日は、働ける主婦が少なく人材確保に困っている。土曜日保育をもっとやってもらえると、企業側としても助かる。
- 【服部委員】祖父・祖母が孫のお迎えを頼まれているという人も多い。お茶のみ会をしても、孫のお迎えを気にして早く帰られる方もおり、拡充していただけるとよい。
- 【小谷委員】保育士不足と言われているが、延長保育となると保育士がもっと不足するのではないか。
- 【事務局】人手がなければ受け入れられないという問題はある。延長保育については、有資格の保育士が2名いれば、他は無資格者でも対応は可能であるが、無資格者であっても応募が少ない状況である。
- 【前田委員】無資格だがパートで日中も働いていたという人の話を聞いたことがある。無資格であっても早朝や時間外だけでなく、日中も働ければ人は集まるのではないか。
- 【事務局】通常保育時間中は、無資格者は必要保育士数にカウントはされません。補助として入ってもらうことは可能ですが、費用面でも問題があり難しい面があります。

#### ○協議結果

- ・方向性については、おおむね事務局案で一同了承。
- ・幼稚園における一時預かり（預かり保育）については、拡大する方向で検討を進める。
- ・延長保育については、時間的な部分について、検討を進める。

(3) 子ども・子育て支援法に関連する基準について

○事務局より説明

・国の示す従うべき基準、参酌すべき基準に基づき印西市の基準を作成する旨の提案について説明を行った。ただし、保育所型事業所内保育事業における乳児室については、県条例を参考に1人あたり1.65㎡ではなく3.3㎡とすることを提案。

○質疑

【西村会長】千葉県の基準は、国より厳しい基準ということか。

【事務局】県条例での認可保育園の基準では、乳児室は3.3㎡となっていることから、その基準にあわせるものである。

【梅元委員】学童クラブの指導員の研修や資格についてはどうなっているのか。

【事務局】学童クラブについては、各クラブごとに保育士や教員等の資格がある人が配置されるよう考慮しているが、必ずいるわけではない。来年4月以降は、研修を修了した有資格者を必ず各学童クラブに配置しなければならなくなり、今後、県等が実施する研修を受けることになる。

【梅元委員】今後の指導員体制は大丈夫か。

【服部委員】主任は有資格者となるのか。また、学童クラブの定員について、おおむね40名以下となっているが、現在、70名定員のクラブもある。この点はどうするのか。

【事務局】有資格者の配置については、現在は特に規定されているものではないが、来年4月以降、各クラブに必ず配置するということになっていくものと思われる。ただ、主任という役付けが必ずしも有資格者であるとは限らない。学童クラブの定員の件については、70人定員のところを2つの単位に分割することも考えている。ただし、学童クラブは学校敷地内に設置されている場合が多く、施設面で簡単に2単位にすることが難しい面もある。

【服部委員】学童クラブの待機児童対策はどうなっているか。

【事務局】現状では、新しいクラブを開所しない限りは待機児童は解消されない。ニュータウン地域は特にそういう状況にある。民間学童クラブもあることから、公立だけでなく私立の学童クラブも活用していきたい。また、新設保育園に学童クラブを併設したいといった話もある。

【服部委員】できるだけ早く待機児童を解消してほしいという要望があるのではないか。

【事務局】要望はあるが、学童クラブの新設については、学校敷地内がふさわしいと考えており、用地確保が難しい状況である。

【梅元委員】学校の空き教室を使ってやっているところもあると聞いているが。

【事務局】余裕教室があれば可能だが、校舎内であっても敷地内であっても、設置については学校側の許可が必要であり、現状では難しい状況である。

【小谷委員】学童クラブは学校の中にあるのが基本ということではないと思う。他所では、学校から15分歩いて学童保育に行く、ということもあり、たとえ学校外であっても早急に設置すべきではないか。

【事務局】現在は、基本は学校の敷地内、次に学校周辺の土地ということで、探している状況である。

【西村会長】学童というのは福祉であり、学校は教育である。学童というのは家庭であるので、学校と学童保育というのは性格が違う。両者の歩み寄りがあるといいと思う。将来的に時間はかかることとは思いますが、学童で保育に欠けない子どもも預かるようになるのではないかと、という話も聞こえてきている。

【事務局】学校以外の場所での開所も可能性としてはあり得ると考えている。

【古賀一人委員】幼稚園内に開所するのはどうか。課外活動で卒園生がたくさん来るので、やってもいいのではと考えている。

【事務局】そういった話があれば、検討したいと考えている。

【西村会長】学童は福祉の事業なので、保育園がやる性格のもの。幼稚園がやるといった場合、県学事課が幼稚園の施設利用について許可するのかが懸念される。

【古賀一人委員】施設利用の面を考えると幼稚園はむずかしい。

【事務局】一部の小学校ではあるが、放課後子ども教室といったものもある。

【前田委員】以前、文科省の放課後子どもプランでは、放課後子ども教室を全校にということだった。私は滝野小学校で放課後子ども教室を立ち上げたが、印西市と合併した時、放課後子ども教室のことはあまり知られておらず、市にPRをお願いしたがなかなかやってもらえなかった。放課後子ども教室は地域の人材を活用して昔遊びをしたり、地域住民の交流としてもすばらしい事業である。我孫子市は、学童保育と放課後児童クラブを併せて実施している。ただし、印西市では、放課後子ども教室は生涯学習課が担当課であり、一緒に行うのは簡単ではないと思われる。

【西村会長】将来的に、幼稚園の無償化と放課後児童対策については、検討されていくものと思われる。

【服部委員】学童クラブの指導員が集まらないという問題もある。給料が安く、やりたくてもやれない、ということがあると思う。主婦的な人しか時間的に難しい。他所では、正職員としての採用でやっているところもある。

【事務局】学童クラブの指導員は、勤務時間が午後1時～7時となり、勤務時間から考えて正職員としての採用は人事労務の関係で無理があると思われる。

#### ○協議結果

基準内容については、事務局案で一同了承。

(4) その他  
特になし。

#### 4 その他

##### ○事務局より連絡事項等

委員報酬と次回会議について説明

- ・次回は8月下旬～9月初旬に開催し、子ども・子育て支援事業計画素案を提示する予定。
- ・今後、利用者負担や施設の定員についても協議していただく。

#### 5 閉 会

平成26年度第1回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成26年8月1日

子ども・子育て会議委員

古賀一人

子ども・子育て会議委員

岩井基